

2024年度 札幌大谷大学社会学部地域社会学科
学校推薦型選抜

小論文

注意事項

- 1 試験開始の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 問題冊子は2ページあります。
- 3 試験中に印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて試験監督者に知らせてください。

問題

現代社会では、スピードの速さが効率性の高いことと評価され、あらゆる場面でタイパ(タイム・パフォーマンス)を求められがちである。社会の持続可能性を考えると、速さだけではなく、違う価値観に目を向けることも必要だろう。

次の新聞記事を参考にして、速さを重視する価値観の問題点は何かを指摘し、その問題点を解決するにあたり、今後どのような視点が必要となるのかについてあなたの考えを800字程度で述べなさい。なお、文章は常体(である体)、横書きとする。

国外にしばらく滞在して日本に戻ると、あらためてすごい！とおもうことがいくつかある。いいことも、わるいことも、両方。流通は、すごくいいことのひとつだ。モノの配達、とくに宅配と、人の運搬、つまり交通が、こんなに円滑な国を、わたしはほかに知らない。

(中略)

メルボルンの宅配業者は水曜日に配送するといった有機野菜の段ボール箱を、月曜日の朝7時前に集合玄関にドサ、と置いていった。早く出かける予定で発見できてラッキー。再配達なんて当然ありえない。自分でとりにくるよう書かれた郵便局の不在通知は、入り口の床に落ち、ゴミと一緒ににはためいていた。

(中略)

公共交通でも、日本では起こらないことが起こる。ロンドンの2階建てバスの運転手はいきなりバスを止め、腹がいたいからここでみんな降りてくれ、といった。それじゃ仕方ない、とぞろぞろ降りていく。これは日本では、ちょっとない。そういえばモスクワのトランバイ(路面電車)を運転していた女性が、市場の前でいきなり降りていって、でっかいスイカを抱えて戻り、何事もなかったように運転再開したこともあった。

(中略)

1分遅れただけでお客さまには大変ご迷惑を、と謝りながらあの本数、あの人数を連日こなしている山手線、指定した日の指定した時間枠にはほぼ間違いなく配達してくれる宅配便のほうが、地上の奇跡なのだ。

だが日本の物流や交通が、このままミラクルでありつづけられるという保証はない。

働き方改革関連法により、2024年から物流を担うトラックドライバーの方々の時間外労働時間に、上限が設定されるという。長時間労働が問題視されてきたこの業界にとってはいいことだ、と単純にはいえない側面がある。競争が激しく、荷主の要求に合わせないと仕事がとれない。運賃を容易には上げられない、いろんなサービスもやめられない。労働時間が減れば売り上げが減る、ドライバーの収入が減る。ドライバーの人員不足と高齢化が、さらに進む懸念がある。

(中略)

この問題が大学のゼミで話題になったとき、「そんなに早く配達してもらわないでいい、と思うこともけっこうあるのに、ゆっくりという選択肢がない」といった学生がいた。たしかに、必要がないときで

さえ、一律に急いでいる。「再配達是有料にしていいのでは」という意見もあった。まさに、再配達してくれるなんてこと自体、わ～お、なのが世界標準なのだ。

お客さまは神さま、という日本のサービス業の教えは、そろそろ方向転換期ではないだろうか。すこしでも早く便利に、という流通の「進化」の必要性に、疑問を抱く人は案外、少なくないと感じる。働く人が不幸な場所は、トラブル発生の場所になる。少子化、AI(人工知能)化、働き方改革—変化の波にのまれずに、「いままで通り」をアップデートする方法はあるはず。ゆっくりという選択肢、ぜひあってほしい。

出典:『北海道新聞』2023年7月4日(朝刊)「中村和恵の考えるピント 日本の配送 奇跡はつづくか ゆっくりという選択肢」
(なお、設問の都合上、原文を一部省略した部分がある)